

国史跡「奄美大島要塞跡」を活用した集落活性化の試み

鹿児島県立古仁屋高等学校
まちづくり研究所同好会

研究の動機

瀬戸内町には多くの戦争遺跡が存在している。その一部は国史跡に指定された。しかし、十分に活用されている状況ではない。地域活性化のためにも、戦争遺跡の活用が望まれる。

研究の目的

本研究は、瀬戸内町の戦争遺跡を活用した地域活性化が目的である。そのために、戦争遺跡の特徴を調査し、どのような活用法があるのかを検討した。今回は、国指定史跡となった「奄美大島要塞跡」を取り上げる。

研究の方法

- ・ 現地を踏査し、瀬戸内町による発掘調査成果なども利用して戦争遺跡の**特徴**を分析
- ・ どのような活用のための取組が可能か**検討**

分析①戦争遺跡「奄美大島要塞跡」の特徴



- ・ 大島海峡付近には、明治時代以降に建設された要塞施設の多くが戦後も**良好な状態**で残存。
- ・ ワシントン海軍軍縮会議やアジア・太平洋戦争などの近代日本の国防政策と密接に関係する遺跡群。
- ・ 中でも「西古見砲台跡」「手安弾薬本庫跡」「安脚場砲台跡」は、**日本の近代史を理解する上で重要な遺跡**であることから国の史跡に指定(令和5年3月)。

分析②「西古見砲台跡」の特徴



砲撃模式図



砲撃の仕組み(※2)

- ・ 西古見砲台は、大島海峡への敵艦の侵入を阻止する目的で1921年に建設。
- ・ 設置された大砲は、**海上から離れた所に設置**。観測所で敵艦の位置を捉えて、砲台へ電話連絡し、砲撃する仕組み。
- ・ 活用のために必要な取組の検討と取組
- ・ 説明や注意喚起のための看板作成
- ・ **遺跡全体の構造を説明するための模型**
- ・ 高校生ボランティアによる案内
- ・ バーチャル空間での建物復元
- ・ **地元カフェで新しいメニューや商品開発**

取組事例



西古見砲台跡模型作成と海の駅「せとうち」での展示



今後の展望

戦争遺跡の活用に向けて、瀬戸内町と連携して、先進地の事例(横須賀市など)等を参考に取組を進めていく予定

謝辞

- ・ 瀬戸内町教育委員会 鼎 丈太郎氏(研究全般)
- ・ 瀬戸内町役場企画課 静島 春玲氏(現地踏査)
- ・ 西古見集落 彌島ヤスコ氏(現地踏査)
- ・ 一般社団法人Fora 浦田 雅也氏(探究支援)

引用・文献参考

- 瀬戸内町教育委員会2022『瀬戸内町内の遺跡3』瀬戸内町文化財調査報告書第7集
- 瀬戸内町教育委員会2023『知ることから始まる瀬戸内町の近代遺跡』瀬戸内町教育委員会(引用※1)
- 瀬戸内町教育委員会2023『瀬戸内町近代遺跡マップ西古見砲台跡』瀬戸内町教育委員会(引用※2)